

林業構造改善事業

基本計画のあらまし（その2）

資本設備を高度化し

生産性の向上はかかる

林業生産力を増大し、生産性の向上をはかるためには、生産手段の機械化にまたなければなりません。

さらに導入した機械施設を効果的に利用するためには、生産活動を協働化することが必要となつてきます。

現在、本町で生産活動を協働化しているのは、森林組合、木炭生産組合、じいたけ生産組合などであります。これら協業体は、これら協業体の機械化が行なわれたことによつて、生産性を著しく躍進している現状にあります。

これがため、これらの協業体向上をはかりますとともに、協業全体の育成強化をはかる必要がある

あります。この計画内容を分析して、資料を準備して、生産性の向上をはかりますとともに、協業の育成強化をはかる必要があります。

1 合併前の五森林組合の実績を

みますと、素材生産量は八五〇立方メートルで、金体の六四%です。

造林は、受託造林がわざかに八一ヘクタールで、一、七六でそ

来の事業計画、さらに本町の民

中小商工業者の巡回総合指導の成果

七月二十六日午後二時より、中央公民館において、山口県商工福利センター係員による、中小商工業者に対する巡回総合指導が行われました。

今回の指導では、多くの参考になつたと思います。

企業経営上の諸問題、設備および資金の問題、その他について講師

による指導を行されました。当日の参考者は、約三千名から

いでした。が、終始熱心に聴講されましたが、終始熱心に聴講されませんでした。

企業経営の安定を受けて、多くの参考になつたと思います。

（写真上は巡回指導の一コマ）



農業計画を樹立し、通信連絡施設を導入して、協業活動の円滑な推進をはかる計画であります。

わさび沼造成で

有林の実績を考えあわせますと機械設備を効率的に利用する

ことは、もちろんですが、さら

にこの事業に必要な木の生産、搬出、撒水などの機械設備も整備が必要がありま

す。

そこで、素材生産および造林目標の達成に必要な機械設備の導入を検討しております。

トル、造林二七ヘクタールを計画しております。

そこで、素材生産および造林目標の達成に必要な機械設備の導入を検討しております。

現在、木炭の需給情勢は、き

わめて険しい現状ですが、本町の生産活動の増大に対応する

柚野地区は、自然的、地理的原因ともに、林家の所得の向上を

落として、協業体を組織し、本

業が行なつて、もじるの安

定をはからうとしている現状であります。

3 林产物といいますのも、むしろ待機的な生産物で、もじうべ

まであります。現在における

生産量は、九六〇キログラム（生産算）で、県生産量の一四%を占めています。

将来におきましては、生産量五倍の四万キログラムを目標として、生産する計画であります。

この目標達成には、今ある

現状を切りぬくように西村源治であります。

生産量の増大を目指す「早期育成モデル林」の設置が考えられております。

これだけは、本町地域の特

徴をはからうとしている現状であります。

これがため、これらの協業体

向上をはかりますとともに、協業

全体の育成強化をはかる必要があります。

婦人会だよりの歩み

昨日、農村における労働力の不足は、必然的に母なる婦人の勤過半は、いつぞくに主婦その過深刻になり、体力の重がかつてしまつた。

十日間で、林を伐り、湖食を吞んで、森林浴などを楽しむなど、夫婦連れで、女性団体の訪問が行なわれます。

そこで、最初は、

女性団体の訪問が行なわれるようになります。

次に、資源開拓や、農業生産向上にあつたのが、木炭の栽培が行なわれたところが多かったです。古くからわさび栽培が行なわれておらず、このわさびは、主として販売され、神市場に出荷されています。

わさび沼造成で、わさびの栽培が行なわれる必要がありました。

わさび沼造成で、わさびの栽培が行なわれる必要がありました。